

屋久島の世界遺産管理における地域連絡会議の役割について

1. 管理の枠組みの見直しのポイント

- 日本の遺産管理における全国的な整合性と、屋久島特有の事情とのバランスを踏まえて、地域連絡会議と科学委員会の両方の体制を見直し、各組織（管理機関である行政、地域連絡会議、科学委員会）の役割の明確化を図る。
- 既存の検討の枠組みと遺産管理とを体系的に整理し、限りある人的資源を考慮した管理の効率化を図る。
- 科学委員会については、検討（助言を得る）テーマの明確化を意識し、必要に応じて検討テーマの個別化（WGの設置）を検討する。
- 管理体制の見直しと、遺産管理計画の見直しとの連動性を考慮する。

2. 世界遺産地域連絡会議の役割について

- 他の遺産地域と同様に、構成メンバーに地元関係者を加え、科学委員会による科学的助言を踏まえて、世界遺産管理に係る状況の共有と施策等の合意形成を図る場とする。また、地域の知や経験を活用するために、地元有識者が参画する。管理機関については、原則として機関の長の出席とする。
- 屋久島においては、歴史の古い①屋久島山岳部保全利用協議会（事務局：屋久島町）や②屋久島町エコツーリズム推進協議会（事務局：屋久島町）が、地元関係者から構成され、地域連絡会議と類似の役割を担っている。
しかしながら、横の連携（協議会間での決定事項や検討事項の情報共有、担当者間での情報共有）が必ずしも十分ではなく、合意形成のスキームが不明瞭であることも踏まえつつ、議題や構成メンバーの類似性、会議の効率化の観点からも、将来的には地域連絡会議と他の協議会等との一部機能の統合や合同開催を検討する。